

258. ばれり集合論 = 於ケル分離ノ原理 = 就テ

酒井政雄(北大)

分離ノ原理ハ解析集合論 = 於ケル最も基本的ナ定理ノ一ツデアール。コノ原理ハ最近 Novikott, Liapounott 及 Lusiu 等 = ヨリ "separabilité multiple" (定義参照) ノ場合 = 拡張サレタ。然ラバ, Borel 集合論 = 於ケル分離ノ原理ガ同様ノ拡張ヲ許スカドウカ? —— = 就イテ Sierpiński: Sur la separabilité multiple des ensembles mesurables B. Fund, Math. t. 23 pp. 292 — 303 = 於テソノ大部分ハ肯定的ノ結

果が共へラレヌ。然シ可附番無限ノ場合ノ第二分離ノ原理
 (ボルノ集合論ニ於ケル) (定義2参照) ハ同氏ニヨツテモ
 取扱ハレズ、尚ソ、上、同論文ノ終リ及ビ Ruziewicz:
Sur la séparabilité multiple des ensembles,
*Fund. Math. t. 24, pp. 199—205*ノ初メニ、カ
 カル場合ハ、拡張ハ不可能デアルト云ツテイル。之レハ何か
 ノ誤解デアラウ。(多ク Liapounoff Disノ條件ノ下
 ニテ不可能デアルト云フ意味デアラウ)。何トナレバ、以下
 証明スルヤウニ、コノ場合ニハリ定理ハソノママ成立スルカ
 ラデアイル。

定義1.

点集合 K ノ部分集合ノ集合ヲ重トスル。

1°. *Lusin*ノ第一分離ノ原理: $E_1, E_2 \in \mathfrak{A}$, $E_1 E_2 = 0$
 ナルトキ, $H_1, H_2, K - H_1, K - H_2 \in \mathfrak{A}$, $H_1 \supset E_1, H_2 \supset E_2$,
 $H_1 H_2 = 0$ ナル H_1, H_2 が存在スル。

2°. *Novikoff*ノ分離: $E_1, E_2, \dots, E_m \in \mathfrak{A}$,
 $E_1 \dots E_m = 0$ ナルトキ H_1, \dots, H_m が存在シテ, H_i ,
 $K - H_i \in \mathfrak{A}$, $H_i \supset E_i$ ($i=1, 2, \dots, m$), $H_1 H_2 \dots H_m = 0$
 トナル。

3°. *Liapounoff*ノ分離: $E_1, E_2, E_3, \dots \in \mathfrak{A}$
 (可附番無限個), $E_1 E_2 E_3 \dots = 0$ 對シテ $H_1, H_2,$
 H_3, \dots が存在シテ $H_i, K - H_i \in \mathfrak{A}$, $H_i \supset E_i$, ($i=$
 $1, 2, 3, \dots$) 且ツ $H_1 H_2 H_3 \dots = 0$ トナル。

4°. *Liapounott* / bis 余離: $E_1, E_2, E_3, \dots \in \mathfrak{E}$,
 $\lim E_m = 0$ = 對シテ H_1, H_2, H_3, \dots が存在シテ, H_i ,
 $K - H_i \in \mathfrak{E}$, $H_i \supset E_i$, ($i = 1, 2, 3, \dots$) 且シ $\lim H_m = 0$
トナル。

定義 2.

1°. *Lusin* / 第二余離原理: $E_1, E_2 \in \mathfrak{E}$ = 對シ
テ, H_1, H_2 が存在シテ, $K - H_1, K - H_2 \in \mathfrak{E}$, $H_1 \supset E_1 - E_2$,
 $H_2 \supset E_2 - E_1$, $H_1 H_2 = 0$ トナル。

2°. *Lusin* / 第二余離原理 / 拡張: E_1, E_2, \dots, E_m
 $\in \mathfrak{E}$ = 對シテ, H_1, H_2, \dots, H_m が存在シテ $K - H_i \in \mathfrak{E}$,
 $H_i \supset E_i - (E_1 E_2 \dots E_m)$, ($i = 1, 2, \dots, m$) 且 $H_1 H_2 \dots H_m$
 $= 0$ トナル。

3°. 可附番無限ノトキノ第二余離原理: 可附番無限個
 $E_1, E_2, E_3, \dots \in \mathfrak{E}$ = 對シテ H_1, H_2, H_3, \dots が存
在シテ, $K - H_i \in \mathfrak{E}$, $H_i \supset E_i - (E_1 E_2 E_3 \dots)$, ($i = 1, 2,$
 $3, \dots$) 且ツ $H_1 H_2 H_3 \dots = 0$ トナル。

定理. *Metric space* = 於テ \mathfrak{E} ヲ α ($1 \leq \alpha < \aleph$)
次ノ *multiplicative* / *Borel* 集合トスル。コノ \mathfrak{E} =
ツイテ可附番無限ノ場合ノ第二余離原理が成立スル。尚、同
時ニ $E_1 E_2 \dots = 0$ トラバ *Liapounott* / 余離原理が
成立スル。

証明.

\mathfrak{E} ヲ α 次ノ *ambigu* / *Borel* 集合トスルト、 \mathfrak{E} ハ

Körper K 上の Φ は Körper Φ 上の E_1, E_2, \dots に対して $\Phi \ni H_1, H_2, \dots$ が存在して乗法閉じた性質を持ち、且つ $E_1 E_2 E_3 \dots = 0$ ならば、此処に H_1, H_2, \dots 同時 $\in \Phi$ となることを証明する。

H_i をつき — Φ 上の E_1, E_2, \dots となること、 Φ が Körper となること = 有り

$E_i = E_i^1 E_i^2 E_i^3 \dots, E_i^u \supset E_i^{u+1}, E_i^u \in \Phi, i, u = 1, 2, 3, \dots$ としてよい。このとき

$$F_i^u = \prod_{\substack{j=1 \\ j \neq i}}^{n+1} E_j^u$$

トオク。このとき、 $F_i^u \wedge F_i^u \in \Phi, F_i^u \supset F_i^{n+1}$ となる。扱て

$$(1) H_i = E_i^1 (K - F_i^1) + E_i^2 (F_i^1 - F_i^2) + \dots \text{トスル。}$$

之れが求まる $H_i, i = 1, 2, \dots$ である。

Klass をつき。 — Φ の Körper 上の (1) の右辺、各項の重 = 属ス。ヨツテ $H_i \in \Phi$ 、即ち $K - H_i \in \Phi$ 。

$E_1 E_2 E_3 \dots = 0 (\lambda \wedge \in \Phi \cup \Phi)$ のとき

$K \supset E_i^1 \supset E_i^1 F_i^1 \supset E_i^2 F_i^1 \supset E_i^2 F_i^2 \supset \dots \supset (E_i^2 E_i^2 E_i^3 \dots) = 0$ となる。 (次、※参照)

$K - H_i = (K - E_i^1) + F_i^1 (E_i^1 - E_i^2) + F_i^2 (E_i^2 - E_i^3) + \dots$ この式、右辺、各項の重 = 属スルカラ、 $K - H_i \in \Phi$ ヨツテ $H_i \in \Phi$

$$H_i \supset E_i - (E_1 E_2 \dots) = \text{ツイテ} \quad E_i^n \supset E_i, E_i^n \supset E_i^{n+1}$$

(2), 第二式ト F_j^{n-1} , 定義 = ヲリ $E_j^{n-1} \ni p, j=2, \dots$
 \dots, n , 依ツテ F_i^{n-1} , 定義 = ヲリ $F_i^{n-1} \ni p, i=1, 2, 3, \dots$
 又 F_k^m , 單調性 = ヲリ

(3) $F_i^0 \supset F_i^1 \supset F_i^2 \supset \dots \supset F_i^{n-1} \ni p, i=1, 2, 3, \dots$

(2), 第三式 = ヲリ k ($KR \leq n+1$) が存在シテ $E_k^n \ni p$.

E_i^m , 單調性 = ヲリ

(4) $E_k^n \supset E_k^{n+1} \supset E_k^{n+2} \supset \dots \ni p$

極テ (1) = ヲリ

$$H_k = \sum_{m=1}^{n-1} E_k^m (E_k^{m+1} - F_k^m) + \sum_{m=n}^{\infty} E_k^m (F_k^{m+1} - F_k^m)$$

コノ式ノ右辺ノ第一項ハ (3) = ヲツテ p ヲ含マズ, 第二項ハ
 (4) = ヲツテ p ヲ含マズ. 依ツテ $H_k \ni p$. 之ハ p ノ定義 = 反
 スル。

依ツテ $H_1, H_2, H_3, \dots = 0$ トナル。

(証明了)

尚上述, *Ruziewicz*ノ論文デハ,

至ル *Ring* デ *Lusin*ノ第二公理原理が成立スルト
 キハ, *Lusin*ノ第二公理原理, 拡張 (定義 2, 2°) が
 成立スル。

トイフコトが面白い方法デ証明サレテキルガ、次ノ如ク
*Novikoff*ノ証明法 = ヲツテモ証明サレル。念ノタメ
 話シテオキマス。コノ方が遙カ = 簡單デアルト思ヒマス。

証明.

$m=2$ ノトキハ、Lusinノ第二命題原理デ、コレハ假定ニヨツテ成立スル。($m-1$)ケノトキ成立スルトキ m 個ノトキモ成立スルコトヲ示セバヨイ。

$E_1, E_2 =$ ツキ, K_1, K_2 が存在シテ

$$K_1 \supset E_1 - (E_1 E_2), \quad K_2 \supset E_2 - (E_1 E_2)$$

$$K_1 K_2 = 0, \quad K_1, K_2 \in \Phi_c$$

($m-1$) 個ノ $(E_1 E_2), E_3, \dots, E_m =$ ツキ L_0, L_3, \dots, L_m が存在シテ

$$L_0 \supset (E_1 E_2) - (E_1 E_2 \dots E_m)$$

$$L_3 \supset E_3 - (E_1 E_2 \dots E_m), \dots, L_m \supset E_m - (E_1 E_2 \dots E_m)$$

$$L_0 L_3 \dots L_m = 0, \quad L_0, L_3, \dots, L_m \in \Phi_c.$$

此處デ、 $H_1 = K_1 + L_0, H_2 = K_2 + L_0, H_3 = L_3, \dots, H_m = L_m$ トスル。

Φ ガ Ring + ル工工, Φ_c モ亦 Ring デアル。依ツテ $H_1, H_2,$ 及ビ H_3, H_4, \dots, H_m ハ凡テ Φ_c 。

$$\begin{aligned} H_1 &= L_0 + K_1 \supset (E_1 - (E_1 E_2)) + ((E_1 E_2) - (E_1 \dots E_m)) \\ &= E_1 - (E_1 \dots E_m) \end{aligned}$$

H_2 モ同様。 H_3, \dots, H_m ハ L_3, \dots, L_m ト同ジモノナル工工、又ハリ同ジ様ナ式が成立スル。

$$\begin{aligned} H_1 H_2 \dots H_m &= (L_0 + K_1)(L_0 + K_2) L_3 \dots L_m \\ &= L_0 L_3 \dots L_m + K_1 K_2 L_3 \dots L_m = 0 \end{aligned}$$

(以上)

日本學士院記事(1934)第9号ノ功力先生ノ論文ニヨリ

マスト、任意ノ *metric space* = 於ケル解析集合ハ *Lusin*
ノ第二公理ヲ充スコトガ証明サレテイマスカテ、上ノ結
果ヨリ次ノコトが言ヘマス。

任意ノ *metric space* = 於ケル解析集合 E_1, E_2, \dots
 $\dots E_m =$ 對シテ、補解析集合 H_1, H_2, \dots, H_m が存在
シテ

$$H_i \supset E_i - (E_1 E_2 \dots E_m), \quad i = 1, 2, \dots, m$$

$$H_1 H_2 \dots H_m = 0$$

トナル。